

2025

国語

注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は㊦から㊧まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学生の麻美は、心の病気により家事がほとんどできない母と二人で貧しい暮らしを送っている。麻美は、同じ団地で同じく貧しい暮らしを送る小学生和馬をかわいそうに思い気にかけていたが、ある家庭の事情で和馬だけが遠方の祖母の家に引き取られてしまった。そんな中、麻美は『まなび』という貧しい子どものための支援施設(本文では「塾」)で、友人の翔と共に料理を教えもらうことになった。

「さて、やるか。今日は残り物のごはんを使うよ。ごはんはできれば冷蔵庫でじゅうぶん冷やしたやつがいいんだ」

塾長のそばに、ごはんが入ったタッパーが三つ、置いてある。

①「あとはあまり物の野菜を少し使おう。本当はベーコンとかニカマとか、味の出るものがあればいいんだけど、今日はそれはなしでやってみようと思うんだ」

タッパーの横に人参の切れ端が転がってる。残り少ないケチャップも。

「ねえねえ塾長。それって、貧乏チャーハン、ってことでしょ」

翔が笑ってる。

「ねえ、塾長。ケチャップ味のチャーハン、ってことですよ」

②「注」唯さんはうっとりしたような顔になってる。

「ケチャップ味。私、好きなんだあ。チキンライスとかオムライスとか、もう最高」

チキンライス？ オムライス？ そんなおしゃれなもの、あたしはしばらく食べてない。うちのは、おいしいのかどうかもわからない『ザ・ケチャップごはん』だ。

塾長に言われたとおり、あたしはタッパーを逆さにする。ごはんがパコツと塊かたまりになって落ちてきた。あは。これ、おもしろいかも。ごはんなのに、固い塊になってて、でも、それほどガチガチにはなっていない。ボウルの上で塊をスポツと割った。それをまた半分。ある程度の大きさになった塊を、指とてのひらを動かして、ポロポロほろほろ。バラバラにしていく。なんか、いい感触だ。小さなごはんの塊が

あたしの手の中で分解されて、ひと粒ひと粒、米の形になって、ボウルの中にパラパラ落ちていく。これもおもしろい。

翔も唯さんも、「おもしろい」「クセになりそう」とか言いながら、次々に塊をバラしてパラパラにしていく。

「これ。和馬に」

ふいに a 口走ってしまつて、あわててやめた。

あたし、これ、和馬にやらせてみたかった。和馬がどんな顔するか、見てみたかった。

翔の手も止まる。あたしはボウルの中を見る。米粒が白い山を作つてる。

「そうだな。和馬、これ、喜んだかもしれないな」

翔はあたしの言いたいこと、わかってくれてる。

「和馬君つて、翔君が言つてた小学生の子でしょ？」

唯さんが話に入つてきた。翔、和馬のこと、唯さんに話してたんだ。

「私、今、ひらめいちゃつた。ねえ、小学生といっしょにごはん作るのつて、どう？ いっしょに作つて食べるの。いい考えじゃない？」

② 唯さんの目が笑つてる。

「家庭科クラブみたいに？」

翔の声に、唯さんはコクコクうなずいてる。

家庭科クラブ……それ、おもしろいかも。

「小学生への食事の提供」つていうと堅苦しくて頭も働かないけど、それならあたしにもイメージできそうだ。

「そうだねえ。かたづけまできちんとやるなら、それもいいかもしれないね」

塾長の b のんきな声が一回は賛成してくれたけど、

「ただ、問題は多いかなあ。食材の確保、人数の把握、場合によっては会場を借りたり。衛生上の問題や、なによりこの企画をどこまで、

どうやって告知するか」

③ 問題点を並べていく。一気に身体からだの熱が冷めていくのがわかつた。

やっぱり、無理なんだよね。塾長でも難しいのに、あたしになんて、無理に決まつてる。

けど。だけど。

米の白い山をにらんだ。^④ 身体中がドクドクしてる。目の奥おくに茶色が見えてきた。窓辺に並んだ茶色（注）のぬけがらたちが、静かにあたしを見てくる。

あたしは。

息を吸いこんで、はきだした。

強くなれ。強くなれ。強くなれ。

「でも、塾長」

声がかすれてる。のどが詰まった。「でも」の先が出てこない。あたし、やりたいんだ。和馬にしてあげられなかったこと。ほかにも和馬みたいな小学生がいるなら、あたしは。

「そうだよね」

唯さんの声でした。

「あきらめたくないよね。麻美ちゃん」

唯さんがあたしの目を見てくる。しっかり見てくる。あたしは深くうなずいた。

「ほら、塾長も。問題点だけ挙げて、あきらめちゃダメですよ。問題点をひとつひとつクリアして、進んでいかなきゃ。麻美ちゃんも、ちゃんと『やりたい』って言っていんだよ」

唯さんの声があたしの背中を押おしてくれる。息を吸いこんだ。身体の中に新鮮しんせんな空気をためて、ゆっくりゆっくりはきだしていく。

「塾長。あたし」

^⑤ 塾長の目が、あたしの言葉を待ってくれてる。

「塾長。あたし、ちゃんとやる。だれかに任せるんじゃないよ、自分でもちゃんと」
塾長が、ゆっくりうなずくのが見えた。

(中略)

家に帰ってきてから、ずっと考えてる。ベッドの上で、転がったり正座したり足伸ばしたり膝抱ひざかかえたり。けど、考えがまとまらない。なにをどう考えたらいいのかさえ、わからない。

思いつき息を吸いこんだら、いやなおいがした。下水みたいな、汗あせみたいな、食べ物あじが腐くさったみたいな、変なおいだ。

窓を開けた。外もドブのにおいが漂たなってるけど、部屋の中よりマシかもしれない。

あたし、いつからこんな空気の中にいたんだろう。

部屋を見回す。足の踏み場ふみもないくらい、床ゆかにいろんなものが置かれてて。

さっきまでいた『まなび』の台所とは全然ちがう。『まなび』では、全部の食器やフライパンを洗ってかたづけ、調理台の上をふいて、床を歩いて、ゴミを処分して、シンクもスポンジでゴシゴシ洗って、水滴すいてきを全部雑巾ぞうきんで吸いとった。床にちらばった水滴も、最後にきちんと掃除そうじした。台所中に洗剤せんざいの香りが広がって、最後に思いつき息を吸いこんだら、身体の芯しんまできれいになった気がした。

なのに、ここは。

⑥ 床にずりおちていたタオルケットを持ちあげた。汗で重たくなってるタオルケットをていねいにたたんで、ベッドの上に置いてみる。

ちよつとだけ、いい気持ちがあった。丸まった洋服も拾いあげて、洗濯物せんたくとたたむものに分けてみる。プリントや紙きれや雑誌の切れ端は、全部一か所にまとめてみた。一度手をついたら止まらなかった。菓子パンのビニール袋ぶくろ、小六のときの教科書、ぐちゃつと丸まったバツだらけのテスト。次から次へといろんな物体が現れる。ほこりまみれの紺こんのセーターを持ちあげたら、ピンクのコンパスが出てきた。

拾いあげて、てのひらに置く。

あたしが小三のころ、母さんが買ってくれたコンパスだ。なかなかうまく使えなくて、母さんといっしょに練習したんだ。きれい好きだった母さん。ごはんも作ってくれて、優しくて。

ふつと、息をつく。

青いコンパスも思いました。「コンパスなんてしけたもん」(注3) って言っておきながら、優香(注4)さんは。優香さんに買ってもらったコンパスを、和馬はお守りみたいに持っていた。

目の奥に映像がよみがえってきた。

和馬との別れの日。トラックに乗りこむとき、和馬はポケットにそつと手を添そえていた。

あれって。あそこには、青いコンパスが入っていたのかもしれない。

ふーっと息をはく。

和馬。ちゃんと食べてるかな。

和馬はいつもお腹なかをすかせていた。(注5) あたしがハンバーグ弁当をむさぼり食べたあの日。あたしは、悲しくて、情けなくて、悔くしくて、そ

れで……。

「小学生にも、食事を提供する場所があればいいのに」

ほんとに、そう思ったんだ。本当に。けど、和馬には間に合わなかった。あたしは。

あたし、立ちあがった。

ぐちゃぐちゃ考えてるだけじゃ、なにも始まらない。これじゃあ、今までのあたしとなんにも変わらない。

あたしは、^⑦コンパスをにぎりしめて、走りだしていた。

(栗沢まり『15歳、ぬけがら』による)

(注1) 唯さん：『まなび』でボランティアをする大学生。

(注2) 茶色のぬけがら：セミのぬけがらのこと。

(注3) かけたもん：方言。何となくぱつとしないものという意味。

(注4) 優香さん：和馬の姉。

(注5) あたしがハンバーグ弁当をむさぼり食べたあの日：和馬がお腹をすかせていることを知りながら、分け与えずに一人で弁当を食べた日のこと。

問一 波線部 a・b の言葉の意味としてもつとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a 口走って

- | | |
|---|---------|
| ア | わずかに言って |
| イ | 急いで言って |
| ウ | 無意識に言って |
| エ | 強気で言って |
| オ | 生意気に言って |

b のんきな

- | | |
|---|----------------------------------|
| ア | 心配事がなく気楽な |
| イ | 真剣 <small>しんけん</small> でなくいい加減な |
| ウ | おろそかにせず慎重 <small>しんちょう</small> な |
| エ | 気がねなく大げさな |
| オ | 隠 <small>かく</small> すことなく盛大な |

問二 傍線部①「あとはあまり物の野菜を少し使おう。本当はベーコンとカニカマとか、味の出るものがあればいいんだけど、今日はそれは

なしでやってみようと思うんだ」とありますが、なぜ塾長はこのような提案をしたと考えられますか。その理由としてもっとも適当なものの中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 味の出るものを使わなくても、おいしい料理を作ることができる自分の料理の実力を見てほしかったから。
- イ 立派な食材を使ったとしても、子どもは味のちがいが分からないため食材がもつたいたいと思っただから。
- ウ 麻美たちが貧しく、そもそも豊富な食材を手に入れることができない境遇きょうぐうであることに配慮はいりょしたから。
- エ シンプルな味付けにすることで、野菜が持つ本来のおいしさを子どもたちに分かってほしかったから。
- オ 質素な食材を使った料理を作ること、豪華ごうかな食材が手に入るありがたみに気付かせたかったから。

問三 傍線部②「唯さんの目が笑ってる」とありますが、このときの唯さんの考えとしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 和馬に対する二人のやりきれない気持ちを察して、前向きな気持ちにしてあげたいと思っている。
- イ 小学生とご飯を作るというアイデアに自信があり、思いついた自分をほめてほしいと思っている。
- ウ 二人が和馬に捉とらわれて苦しんでいることが分かり、他のことで気を紛まぎらわせたいたいと思っている。
- エ 冗談じやうだんを言っただけで場を和ませることで、二人に少しでも明るい気持ちになってほしいと思っている。
- オ 自分の提案が実現できないことに気づき、二人が本気にしないようにごまかそうと思っている。

問四 傍線部③「一気に身体の熱が冷めていくのがわかった」とありますが、このときの麻美の気持ちを七十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部④「身体中がドクドクしてる」とありますが、この表現は麻美のどのような様子を表していますか。その説明としてもっとも適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 思ってもいないことをとっさに口にしてしまい動揺どうようしている様子。
- イ せっかくの提案に否定的な意見を言われて怒りいかがこみあげている様子。
- ウ 一人の力では何も達成できないことを情けなく思っている様子。
- エ 貧しい小学生を救いたいという気持ちを抑おさえきれないでいる様子。
- オ 貧しい小学生を救いたいのは自分だけだと感じ悲しみに暮れている様子。

問六 傍線部⑤「塾長の目が、あたしの言葉を待ってくれてる」とありますが、塾長はなぜこのような行動をとったと考えられますか。その理由としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 麻美を否定してしまって空気が悪くなったため、これ以上口をはさまないことで周囲からの信頼しんぱんを取り戻もどしたかったから。
- イ 麻美が意見を言おうとしていることに気付き、自分で言わせることで今までの自分を乗りこえられるよう応援したかったから。
- ウ 麻美が責任を持って取り組むことができるか気がかりなため、はっきりと自分の口で言えるかどうかを確かめたかったから。
- エ 麻美のやりたいことが本当に実現できるかどうか確信を持たず、無責任に背中を押すようなことを言うのは控ひかえたかったから。
- オ 麻美が何かを伝えようとしていることは分かったが、どんなことを言おうとしているのかは予想することができなかったから。

問七 傍線部⑥「床にずりおちていた〜まとめてみた。」について、麻美はなぜこのような行動をとったと考えられますか。その理由としてもつとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 『まなび〜』での出来事を通して前向きな気持ちになり、身近なことから実際に行動してみようと思い立ったから。
- イ 『まなび〜』で周囲の環境をきれいに保つことの大切さを学び、掃除を怠^{おこた}ってしまった自分が恥ずかしくなったから。
- ウ 『まなび〜』のきれいな台所を思い出し、自分が汚^{きたな}い部屋で生活していることを皆^{みな}に知られたくないと思ったから。
- エ 『まなび〜』で貧しい子どもの話をしたことで、物がたくさんある自分は恵^{めぐ}まれていたのだということに気付いたから。
- オ 『まなび〜』で和馬の話をしたことでコンパスのことを思い出し、部屋を片付けてコンパスを探そうと考えたから。

問八 傍線部⑦「コンパスをにぎりしめて、走りだしていた」とありますが、このときの麻美の気持ちを七十字以内で説明しなさい。

問九 この文章の説明としてもつとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 麻美が呼吸をする描写^{びやうしゃ}を細かく描くことによって、読者が麻美の体調の変化に注意を向けるようになっていく。
- イ 塾長や唯さんという大人を登場させることによって、一人では何もできない子どもの未熟さを一層際立たせている。
- ウ 裕福な環境の『まなび〜』を舞台^{ぶたい}にすることによって、陰^{かげ}に隠^{かく}された貧困層^{れつあく}の劣悪な環境を浮^うき彫^ぼりにしている。
- エ 明るい雰囲気^{ふんいき}の擬音語^{ぎおんご}や擬態語^{ぎたいご}を多く使うことによって、子どもたちの置かれている悲惨な現状^{ひさん}をやわらげている。
- オ 全文を通して麻美の視点で描かれることによって、読者に麻美の細かな心の動きが実感できるようにしている。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

豊かさの転換

(中略)

科学や技術は、今の世の中を作り上げるのに絶大な力をもっています。この科学や技術が前提としている思想に問題があると私は思うのですね。

先ほど質と量という話をしましたが、^①科学は基本的に質を扱わないものです。量だけで考える。すると数式が使えて、きわめて的にみえる学問になっていきます。理科系だけではありません。経済学もそうです。

すべてのものは同じ質であり、^②違いは多いか少ないかだけ。つまり価値を測るものは、ただ一本。すると、量の多い方がより豊かだ、より良いのだ、という価値観になりやすいのですね。だから、より幸せにと思えば、どんどん量を増やす。そして地球の資源や生物多様性を食いつぶすことによって量を増やしているのが現実です。量だけで価値判断するやり方を、このあたりで卒業しないと地球がもちません。これからの私たちの暮らしは、より量を減らす方向に向かわざるを得ません。

量を減らせば貧乏びんぼうになってしまうと、^③どうしても私たちは考えがちで、だからこそ、これだけ環境問題・資源の枯渇こかつが叫ばれても、量を減らせないので。でも、量の減少、即、貧乏とは、私は必ずしも思っています。そう思う理由一。ここで、サンゴ礁しょうごうのことを思い出して下さい。熱帯の貧栄養の海、つまり貧乏な海を、多様な生物にあふれた豊かな海にサンゴ礁は変えていました。サンゴと褐虫藻かっちゅうそうの共生と、その間の資源のリサイクルにより、^④乏しい環境でも、きわめて豊かに暮らせるようになってるのがサンゴ礁。共生とりサイクルが貧しいものを豊かに変える手立てだというのは、きわめて示唆的ししやくです。

もう一つの理由。「量が多い＝豊か」という今の生活が続けられなくなっても、みじめと感じなくてもよい方法があるのです。量から質へ、豊かさのとらえ方を変えればいいのです。

多様だ、というのは質がいろいろあるということです。量はほどほどいいから、質の違ったものがいろいろあることが豊かなのだと、豊かさの定義を変えればいい。生物多様性を大切にすると、多様とは豊かなこと、だから大切にするのはだという発想に基づいて、生物多様性も議論されるべきだと私は思っています。

歴史あるものを大切に

科学的発想の問題点はまだまだあります。

科学は普遍性を大切にします。いつでもどこでも何にでもあてはまる法則、それが科学では重要なのです。ところが生物は B 主義でご当地主義です。異なる環境ごとにそれに適応した異なる種がいます。そしてそういう種は、進化の長い歴史の産物なのであり、歴史には偶然がからんできます。だから多様な生物はそれぞれが特殊なのであって、普遍性を大切にする科学の目から見ると、そんな物は重要性が低いと思われがちなのです。

でも、かけがえがないとは特殊だということです。長い歴史をもった特殊なもの、そういうものに価値があるのだという発想が、生物多様性を大切にする根底にあるべきです。

これをサンゴ礁に引きつけて言えば、進化という歴史の中で、独特のものが形づくられて来たのが今、私たちが目になっているサンゴ礁の多様な生物たちなのであり、これは価値あるものとして大切にすべきです。そして、南の島には独特の文化があり、それを育んできたのがサンゴ礁です。生物も文化も、^④歴史をもつ独特のものは、それだけで価値ありとすべきです。

科学について、さらに一言。科学は、世界を単純化して眺めるものです。世界の構成要素も単純化し、要素間の関係も単純化します。科学が質を問わないのは、構成要素を単純化するためです。

ところが生態系は、質の異なる非常に多くの生物たちが相互に複雑な関係を結んでできあがっているものです。これは科学が苦手とする相手なのです。ア なにせ単純に量に換算して数学的に処理することが困難です。

それに、イ そもそも数学そのものが成り立つのかも、疑問なのです。 $4 - 1 = 3$ という算数は、いつでも成り立つとされていますが、生態系の場合、ウ かりに四種の生物があり、そのうち、一種でもいなくなったらその生態系そのものが成り立たない ということはあり得るわけで、 $4 - 1 = 3$ I になってしまいます。

サンゴと褐虫藻が一緒になると、エ ものすごい働きをしますから、 $1 + 1 = 10$ や 100 という答えになります。

こんなふうですから、生物多様性に関しては、数字にしっかりと裏打ちされたはつきりしたことが言えません。とくに予測に関しては、数式を使ってシミュレーションをするから予測が立てられるのであり、数式がうまく使えないと、オ かなりあいまいな予測しかつきません。 でも、はつきりしないから何もなくてもいい、という判断を下さないようにしようではないか、というのが、こういう問題に対する態度だと思います。

自然も私を見つめている

科学の立場は、見るものと見られるものとの間が、きっぱりと分かれています。私という見る主体があり、見られる物という客体が別にあるのです。私という主体は、物たちの遥か上方から、いわば神様の視線で物を見て操作します。私と物との間には距離がありますから、こちらが何をやっても、やられた相手がやり返してきて、こっちが危険に陥るなんてことは考えなくていい。こういう態度に慣れてしまうと、自然に対して何をやっても自由だし安全だと考えがちになります。それが、自然から大きなしっぺ返しを受ける今のような事態を作ってしまった。

こういう、見る私と見られる物、という関係で自然とつきあうのには、別の危険もあります。私が一方的に物を見ているわけですから、結局、自分にとって関心の持てる面のみを見て、相手をこき使っていくという形に、どうしてもなりがちです。今の生物多様性の議論にしても、まさに⑤ そんな感じなんですね。

人間に役立つという C 的な側面だけを集めて、今の私たちは自分の世界を作っています。でもそんな世界に住んでみると、自分自身も功利主義だけの薄っぺらな人間になり下がるおそれがあります。

私にとって相手が役に立たないということは、相手が私を否定したり私に抵抗したりする側面をもっているということです。そういう側面をも含めて相手と向き合う時に、世界も私も薄っぺらではない充実したものになる。生物多様性を大事にするとは、⑥ こういう姿勢で生物たちと向き合うことだと私は思うのですね。

(本川達雄『生物学的文明論』による)

(注1) 示唆的：明示されていないが、指し示されているかのような様子のこと。

問一 空欄A～Cに入る言葉としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

- ア 一方 イ 圧倒 ウ 全体 エ 客観 オ 個別 カ 専門 キ 自由

問二 傍線部①「科学は基本的に質を扱わない」とありますが、その理由を「歴史あるものを大切に」の章から探し、十五字以内で抜き出して答えなさい。

問三 傍線部②「ものさし」とは何をたとえた表現ですか。そのたとえられていることを自ら考え、二字の熟語で答えなさい。

問四 傍線部③「私たち」とありますが、ここでいう「私たち」とはどのような人たちのことですか。本文全体を読み、その内容として不適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 「科学的発想」にすっかりなじんでしまった人たち。
イ 目先の「豊かさ」にとらわれて我慢ができない人たち。
ウ 「特殊」であることに価値を認めようとする人たち。
エ 何にでもあてはまる「普遍性」を大切にしている人たち。
オ 自分たちに「役に立つ」かどうかを求める人たち。

問五 傍線部④「歴史をもつ独特のものは、それだけで価値ありとすべき」とありますが、どうして「歴史」は「価値あり」につながるのですか。「歴史がある」ということは、「」に続けて五十字以内で説明しなさい。

問六 波線部ア～オのうち、言葉の種類異なるものを一つ選んで、記号で答えなさい。

問七 空欄Iに入る数字を、本文をよく読んで答えなさい。

問八 傍線部⑤「そんな感じ」とありますが、その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 生態系尊重をうたいながらも、結局は人間にとって生物の有益な側面ばかりに目が向けられている姿勢。
- イ 神様の視点から自然を見下して、自らの安全は確保した状態で、対象を自在に操作しようとする姿勢。
- ウ 人間にとっての有益性などには目もくれず、あるがまま手つかずの自然を尊重していこうとする姿勢。
- エ 生物のなかでも人間にとって危険なものには目を向けず、安全な生物の増加だけに力を注いでいる姿勢。
- オ 科学的シミュレーションを重視し、正確に予測できる事態に対してだけ対応していこうとする姿勢。

問九 傍線部⑥「こういう姿勢」とはどのようなものになりますか。もっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア あいまいな予測のもとに保護に向かうのではなく、きちんとした科学的シミュレーションのもと環境保護に向き合う態度。
- イ まずは人間同士に存在する対立や否定をしっかりと解決した後で、ほかの生物の関係性である生態系を守ろうとする態度。
- ウ 保護の対象となる生態系を一面的に見るのではなく、もっと上方の神様の視点から見てバランスを考えて整えていく態度。
- エ 生物同士の関係性である生態系のみを目を向けるのではなく、地球環境も含めた総合的な視点から原始もとに戻ろうとする態度。
- オ 自分にとって役に立たないように見えたり、敵対するようにも見えるものであってもその存在の価値を認め尊重する態度。

問十 本文のテーマである「科学的発想」と「生物多様性」の関係を次のように整理しなおした場合、空欄X・Y・Zにあてはまる文を本文の表現を活用しながら答えなさい。

科学的発想の特徴	生物多様性に与える影響
・質を無視して、量だけで考える。	環境問題・資源の枯渇につながる。
・【 X 】	かけがえのない特殊な生物たちに目が向けられない。
・【 Y 】	生物同士の複雑な関係性が無視される。
・【 Z 】	自分にとって関心のある部分しか見なくなる。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 会場でオーケストラのシキをする。
- ② 敵を憎むカゲキな意見ばかりではいけない。
- ③ 食べすぎによるヒマンが問題になっている。
- ④ 好きなゲイノウジンがドラマに出演していた。
- ⑤ 商店街で小さなお店をイトナむ。

注意
一字数制限の問題では、句読点も一字として数えます。

②×5	③×3	④	④	②	③	⑧	④	②	③	②×3	
①	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一	
指揮	Z	Y	X	オ	ア	0	エ	ウ	基 準	構 成	A エ B オ C ア
②	見る・見られるの関係がはっきりしている。 世界を単純化して眺める。 普遍性を大切にします。						も	し	偶	歴史があるということは、その長い時間的な変化を	
過激		の	て	然	に		き	と	か	ら	
③		な	た	か	と	ら	い	み	あ	の	
肥満		か	う	あ	っ	長	か	て	い	時	
		ら	、	っ	長	い	け	特	殊	間	
④		。、	か	て	い	時	が	殊	間	の	
芸能人		。	か	て	い	時	え	な	な	な	
			の	進	化	か	な	化	を	で	
			な	化	を	で					
⑤											
営(む)											

④	⑩	④	④	③	⑩	③	③	②×2								
問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一								
オ	と	は	け	い	コ	ア	イ	エ	実	な	意	よ	唯	ア	ウ	a ウ b ア
	決	な	た	出	ン				感	い	欲	う	さ			
	意	く	い	し	パ				し	と	が	な	ん			
	し	、	と	、	ス				て	思	わ	小	の			
	て	解	頭	和	を				い	い	い	学	提			
	い	決	だ	馬	見				る	知	て	生	案			
	る	に	け	の	つ				。	り	い	を	が			
	。	向	で	よ	け					、	た	助	実			
		け	考	う	和					自	が	け	現			
		て	え	な	馬					分	、	ら	し			
		動	て	小	の					の	現	れ	た			
		き	い	学	こ					無	実	る	ら			
		出	る	生	と					力	的	と	和			
		そ	の	を	を					さ	で	思	馬			
		う	で	助	思					を	は	い	の			

受験番号	フリガナ	
	氏名	

得点	
----	--